

# 私学の魂

サレジオ学院中学校・高等学校

## 創立者ヨハネ・ボスコの精神を受け継ぎ 常に生徒とともに居る「アシステンツァ」の教育姿勢で、 他者の「声なき声を聞ける」人間形成をめざす 小規模教育のカトリック系男子進学校

1960(昭和35)年に創立されたサレジオ学院中学・高等学校。18世紀のなかば、イタリアの子どもたちの姿に心を痛め、彼らに「遊び場を、食べものを、仕事を、家を与えて、安らぎのオラトリオをつくった」神父、聖ヨハネ・ボスコ。すべての少年たちの父となり、ドン・ボスコと呼ばれた彼が、「少年たちの安らぎをいつまでも…」との思いから起こした教育修道会が、サレジオ学院の設立母体である「サレジオ会」です。「私は君たちのために学び、君たちのために働き、君たちのために生き、君たちのために命を捨てる覚悟がある」と語ったドン・ボスコの教えは世界に広がり、現在およそ120カ国で1600ほどの教育事業が行われています。

創立から現在までの50数年の間に2度の校地移転を経て、現在では完全中高一貫教育の恵まれた教育環境を整え、大学進学の結果も躍進したサレジオ学院中学・高等学校。今回は、そのサレジオ学院の校長を2010年から務め、ご自身も同校の卒業生である鳥越政晴先生と、進路指導部長の中井俊夫先生にお話を伺いました。



校長 鳥越政晴先生

### DATA

#### 1

#### サレジオ学院中学校・高等学校

沿革 1960(昭和35)年 東京都目黒区碑文谷に目黒サレジオ中学校創立。  
1963(昭和38)年 川崎市宮前区鷺沼に高校校舎落成。  
1975(昭和50)年 川崎サレジオ中学校創立。6ヵ年一貫教育を開始。  
1976(昭和51)年 川崎サレジオ中学校新校舎落成。  
1991(平成3)年 サレジオ学院中学校、サレジオ学院高等学校と名称変更。  
1995(平成7)年 横浜市都筑区の new 校舎に移転。

校長 鳥越 政晴

所在地 〒224-0029 神奈川県横浜市都筑区南山田3-43-1  
TEL: 045-591-8222 (代表)  
<http://www.salesio-gakuin.ed.jp/>

交通 横浜市営地下鉄グリーンライン「北山田駅」から徒歩5分。

## 常に子どもたちとともに居る 「アシステンツァ」の教育姿勢

校長の鳥越政晴先生は、かつて目黒区の碑文谷にあった目黒サレジオ中学校が、1975（昭和50）年に川崎サレジオ中学校と校名をあらためて鷺沼の校地に移転する前年に、同中学校に入学しました。在学中に目黒と鷺沼のキャンパスの両方を経験し、大学を卒業して司祭・教員となり、現在の横浜市都筑区の新校地に移転した母校に戻る経験をしたといいます。そして、2010年から校長に着任しました。

「ちょうどそうした節目の時期で、三つのキャンパスを経験することになりました。ただ、私が在学していた頃は高校募集もあり、中学はまだ2クラスで、1学年80名という小規模な男子校でした。もともとサレジオ会の学校は、家族的な教育を理念としていましたので、先生と生徒の距離はとても近かったと思います。現在は中高とも1学年約180名で、他のカトリック男子校と同じくらいの規模になっています。キャンパスや校舎などの教育環境も、当時とは見違えるくらい恵まれたものになりました」と鳥越先生。

ただ、広い敷地に恵まれた校舎が建てられ、1学年180名の規模になった現在でも、以前の家族的な雰囲気と、生徒と教員の距離の近さは変わりません。

「本校の設立母体であるサレジオ会の創立者、聖ヨハネ・ボスコが『ドン・ボスコ』と呼ばれたのは、親を亡くして身寄りのない、あるいは貧しい暮らしをしてきた多くの少年の父親代わりになったからです。そのドン・ボスコの“常に子どもたちとともに居る”という『アシステンツァ』の精神を受け継いで運営されているのが、世界中のサレジオ会の学校なのです。

私が中学に在席していた当時の校長だったガエタノ・コンプリ神父も、休み時間には校庭で遊ぶ生徒たちを、



校内のマリア像も、生徒たちの成長を見守っている。

いつも近くで見守っていたと語り継がれています」と、鳥越先生は当時を振り返ります。

そうした温かで家族的な雰囲気を現在も受け継ぐ一方で、サレジオ学院はこの30数年の間に、男子の保護者の多くが期待を寄せる大学進学面での成果を着実に高め、いまでは東

### サレジオ会の学校(カトリック校)と 家庭の役割

コラム1



ドン・ボスコは教育における家庭との重要性も述べています。家庭と学校は、子どもを中心とした「教育共同体」。家庭と学校が同じ方向を見てアシストしなければ、最大の教育効果を期待することはできません。家族や教師から「愛されている経験」、実感が子どもにあってこそ、全人的教育は叶うと考えられています。

京大学をはじめ、国内の難関といわれる国公立大学に多くの生徒が進学する、有名進学校に変貌しました。中学入試の偏差値も格段と高まり、すでに神奈川では有数の難関校に位置しています。

「保護者から大学進学への期待が寄せられる以上は、その期待に応える教育を行う必要があるでしょうし、また、それができる素質や意欲を持つ生徒が入学してくるようになれば、高い目標に挑む生徒の意思を後押ししてあげるのは当然です。

もともと多くのカトリック校では、大学受験のための努力や学習指導と、人間形成のための教育が矛盾しているものとは考えていないのです。それは両立できるものであり、個々の生徒が、神様から与えられたタラント（賜物＝才能）に磨きをかけて、その力を他者や社会のために役立てることのできる人間を育てることが、キリスト教学校のミッション（＝使命）でもあります。ほとんどのミッション・スクールの教育の根底に『イエス様の価値観である“他者のために生きる”』という共通の理念があるのは、そうしたことを意味しています」と鳥越先生は言います。そうした生き方をするために、大学合格に向けても努力をすることは当然という考え方なのでしょう。

ご自身もサレジオ学院で多感な中高生時代を過ごし、卒業してからは教員、そして司祭として、自ら「子どもたちとともに居る」道を選んで、サレジオ会の学校で教育に携わってきた鳥越先生の考えと言葉には、いまも脈々とドン・ボスコの精神が受け継がれています。

## 高いスキルを他者のために役立て 「声なき声を聞ける」人間に！

ただし鳥越先生は、ただ単に大学に合格できるだけの教育をするつもりはないと言います。

「中高の6年間で、ただ大学に合格する学力を身に着けるだけの場であってはならないと考えています。また、この先の大学入試改革にあたって、文部科学省はスキル系のことを主に強調していますが、本当に大切なのは、そのスキルを使って“どういう生き方をするのか”だと思います。そのスキルを育てることと、人としての生き方を考える力を育てることが、相反することなく両立できるのかどうか。その点を、いますべての学校、とくに私立学校が問われていると感じています。

ですので、たとえば本校では、いま盛んに教育の世界でも言われる『グローバル人材』の本当の意味についても再定義しているところです。

また、最近、私自身が生徒や保護者に度々話しているのは、『声なき声を聞ける人に！』ということです。

非常に抽象的な言い方ではありますが、幸いなことに本校の生徒や保護者は、そうした話にも耳を傾けてくれます。生徒も何となく、その意味を考え続けてくれるように感じています。それがやがて成人し、社会に出たときに心のなかに息づいて、時にそうした生き方について思い起こしてくれば、それもサレジオの教育の意義だと思えます。

ドン・ボスコが創立したサレジオ会はもともと“庶民感覚”を持った修道会です。だからこそ、他者や弱い者への思いやりを大切に、そうした立場にある子どもたちと生活を共にしてきたのだと思えます」と鳥越先生。

サレジオ学院中学校の創立は1960（昭和35）



生徒たちと並ぶ校長の鳥越先生。サレジオ学院の生徒の表情からは「自己肯定感の高さ」が感じられる。

年。まだ創立から57年目の、国内のカトリック校のなかでは比較的新しい学校です。しかし、その間、2度の校地移転や完全中高一貫校化なども経て、大きく進化し、この先もさらに発展していくことが期待されています。

「いずれにしても、預かっている生徒の能力を高める手助けをすることは必要なことです。一人ひとりの持っている才能を育て、子どもたちに合った未来を築く後押しをするのが私たち教員の使命ですから」と、鳥越先生は、生徒たちの「学力を高める」ことも正面から見つめています。

その一方で、鳥越先生の言う『声なき声を聞ける人に！』という言葉を受け止めたサレジオ学院の生徒たち（＝サレジアン）が、将来どのように育っていくのかに注目したいと思います。

## 「信」・「愛」・「理」に気づくための 「体験」と「対話」の場づくりを重視

いま、「2020年大学入試改革」と、そのための新しい『学習指導要領』が導入される2020年を節目に、日本の教育は大きく変わろうとしています。

「文部科学省が求める『子どもたちが主体的に学ぶ、能動的な学び（＝アクティブラーニング）』は、もともと子どもが主役という意味で、いわば本来の学びであり、大切なことだと思います。その意味でも、いまが私立学校にとっても自らの教育を見直し、さらに進化、深化させるチャンスだと思います。

そのために本校でも、たとえば今年から中学の教室にはすべてプロジェクターを設置し、来年は高校の教室にもすべて導入します。こうした「ICT機器」は教育の道具としてはとても便利なもので、すでに積極的に活用している教員もいます。私自身も宗教の授業では、ほとんどタブレットを持参して「ICT紙芝居」を



常に子どもたちの傍にいたドン・ボスコは、誰にでもわかりやすい言葉で、さまざまな教えを残してくれたという。



生徒と先生の距離が近いのもサレジオ学院の伝統だ。

見せながら授業をしています（笑）。

ただ、道具が変わっても、変わらず大切なことがあります。とくに母語教育の重要性などは、英語教育が重視される時代だからこそ、一方でなおさら大事になると考えています」と鳥越先生。

もうひとつ、サレジオ学院では、前校長の河合恒男神父の時代から、「25歳の男づくり」という目標を掲げてきました。

「ドン・ボスコは、人間はどのような環境にあっても等しく『全人的成長』を求められ、それを実現するための機会、つまり教育の機会を与えられるべきだと唱え、実践しました。

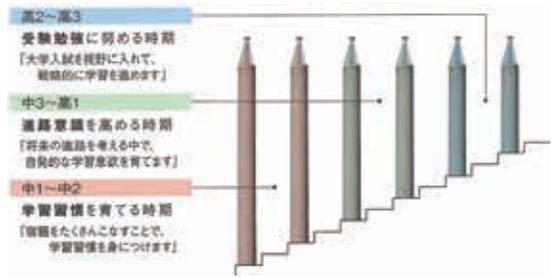
その全人的成長、つまり精神的成長のための教育を、私たちは『25歳の男づくり』という言葉で表現しています。高校卒業時に完成形を求めるのではなく、社会である程度のことをしていける位置につくであろう時点—25歳—を目標に、変革できる人間になってほしいとの願いを込めています」と、鳥越先生は同校の「学校案内」の巻頭文でも述べています。

サレジオ学院がカトリック・ミッションスクール（＝生徒一人ひとりが神から与えられた使命を実現するための学校）として教育理念に掲げている言葉は「信」・「愛」・「理」です。



小規模な男子校ながら部活動も盛ん。9つの運動部、6つの文化部、5つの同好会がある。

ここでいう「信」とは「信念」、「愛」とは「愛情」、「理」とは「道理」を意味しています。サレジオ学院が大切にしている、学校がただ勉強する場所ではなく、良き仲間と共に、人生をより良く生きるための信念や



中高6年間で2年ごとの3つの時期に分け、それぞれの時期に応じた指導が行われる。

信仰を育てる場所であること、「アシステンツァ＝共にいる」の精神のもと、教員はいつも生徒のそばで見守り、愛情を注ぎ続けること、学校という共同体に必要な規範、筋道の根底にある一つの「わけ」＝「理」を理解できるように導くこと、などの教育姿勢が、この三文字に込められています。

『「25歳の男づくり」が意味する全人的成長のためには、精神・身体・霊という3つの側面からの教育が必要です。

精神は学力を含む精神活動全体を指すもので、私たちはその成長を、カリキュラムや個々の授業のレベルアップ、施設の充実などでアシストします。

身体の成長は、神に与えられたいのちを生き生きと輝かせることです。部活動や体育の授業、体育祭、マラソン大会などの行事、昼休みの遊びなど、成長期のからだを大いに動かす機会を作っています。

霊的側面とは、崇高なものや神様への憧れという感受性のこと。その教育の中心となるのがキリスト教です。宗教の時間や朝の話をはじめ、感謝祭、慰霊祭、クリスマス、卒業式のミサなど、折に触れてキリストの教えを聞き、心に刻みます」と鳥越先生は言います。

「そのための『体験』と『対話』の場をできるだけ多く学校生活のなかに設けているのが、サレジオ学院の特徴ではないかと思います」という鳥越先生の言葉が、同校を理解するヒントになりそうです。

## 東大9、京大3、東工大10、一橋大5名など 難関国公立大学への高い現役合格率

校長の鳥越先生に続いて、進路指導部長の中井俊夫先生にお話を聞かせていただきました。

今春2017年の大学合格実績は、177名の卒業生で、東京大学9名（うち現役8名）、京都大学3名（2名）、東京工業大学10名（8名）、一橋大学5名（5名）、横浜国立大学14名（12名）をはじめ、医学部医学科14名（9名）など国公立大学を中心に、慶應義塾大、

## 中学校カリキュラム

	中1	中2	中3
国語	5	6	6
社会	4	4	4
数学	6	6	6
理科	4	4	4
音楽	1	1	1
美術	1	1	1
保健体育	3	3	3
技術・家庭	1	1	1
宗教	2	1	1
特別活動	1	1	1
英語	6	6	6
総合的学習	(2)	(2)	(2)
合計	34	34	34

	月	火	水	木	金	土
8:35~	ホームルーム					
1 8:45~9:35	体育	数α	国語	宗教	英文法	数β
2 9:45~10:35	国文法	理科I	数α	社B	技・家	社A
3 10:45~11:35	英語	数β	理科I	理科I	体育	国語
4 11:45~12:35	英会話	宗教	理科I	国語	英語	体育
5 13:20~14:10	社A	国語	英語	数α	美術	
6 14:20~15:10	LHR	英語	社B	音楽	数α	

中学1年時間割例

無駄のないカリキュラムも、丁寧な進路指導も中高一貫教育だからできること。面倒見の良さも伝統となっている。

早稲田大、上智大、東京理科大などの難関私立大学にも、かなりの率で合格しています。



進路指導部長の中井俊夫先生

「東大への合格が増えれば、生徒募集の宣伝にはプラスになるのかもしれませんが、とくにそれを積極的に勧めることは本校ではしていません。鳥越校長も同じことをお伝えしたと思いますが、中高で基礎学力を身に着け、大学に進学して磨いたスキルを生かして“どう生きるか”をじっくり考える時間と機会があるのが、サレジオ学院の特徴ではないかと思っています。

そのためのキャリアガイダンスは中学3年次から行われ、男子校としては充実していると思います。とくに高校1年の秋に2泊3日で行う『進路ガイダンス』は、生徒が将来を考えるうえで、非常に大きな機会として大切にしてきました。

以前は蕪山の学校施設で行っていたのですが、現在



1週間で部活動のできる曜日は限られているが、その時間を最大限に生かし、高いレベルで活躍する部も多い。テニス部は全国中学生テニス選手権大会優勝の実績もある。

は交通の便を考えて、国立オリンピック記念青少年総合センターで行っています。大学の先生に話を聞かせていただいたり、様々な学問系統で実際に学んでいる現役大学生・大学院生に話をしてもらったりする時間のなかで、じっくりと、自分が進みたい大学や学部を考えていきます。仲間やOBと一緒に、泊りがけで進路や志望の職種を考える時間であることも大きいように思います。

もうひとつは、高2からの文理選択にあたって、安易な選択をしないようにという意味もあります」と中井先生は話してくれました。

## <平成29年度 主な大学別合格者数>

本年度卒業生数 177名

■ 国公立大学		■ 私立大学	
東京大	9(8)	慶應義塾大	39(35)
京都大	3(2)	早稲田大	65(59)
東工大	10(8)	上智大	30(22)
一橋大	5(5)	東京理科大	57(52)
他旧帝大	16(12)	立教大	23(21)
横浜国立大	14(12)	明治大	94(78)
医学部 医学科	14(9)	医学部 医学科	21(11)

( )内の数字は現役合格者数

2020年の大学入試改革後の、新たな大学入試への対応はどう考えられているのでしょうか。

「正直なところこれまででは座学が中心でしたが、今後はもっと学校の外に出て、いろいろなことを見聞きや体験したり、チャレンジしたりする場を増やしていきたいと考えています。

『総合』の授業では、調べ学習→プレゼンテーション→論文作成という一連の学びも今後取り入れていきます。3年後からの新たな大学入試に向けては、『ICT+授業改善(アクティブラーニング)委員会』も設け、十分に対応できるよう検討を進めています。

ただ、その一方で、従来からの一般入試にも対応していく必要がありますので、そこは力を緩めることがないように心がけているところです」

これまでの高い現役合格率を維持できるようにしながら、新たな大学入試への対応も進めているということでしょう。

「その両方にしっかり対応できる力を育てるには、やはりそういう学びの場や空間を作ることが、私たち教員の役割だと考えています」と中井先生。

小規模な学校ながら、専任63名の教師陣が、いずれも「アシステンツァ」の精神で、生徒の将来の進路

や職業選択の希望の実現に向けて、じっくりと手厚くサポート、アシストしてくれるのが、サレジオ学院の教育の本領なのでしょう。

## 卒業した生徒と保護者の感想が重なる サレジオ学院の穏やかさと居心地の良さ

サレジオ学院で中高6年間を過ごした卒業生の声を紹介すると、サレジオ学院の魅力とは、「穏やかで優しく自由な校風で、居心地が良い」、「先生との距離が近いところ」、「生徒みんなが仲が良く団結力がある」、「校舎全体が明るくてきれい」、「カトリック・アシステンツァの精神が生きている」、「毎日ジャージで学校生活が送れること」などの感想が並びます。

サレジオ学院に通って良かったことは、「なんとといっても素晴らしい友人に出会えたこと」、「アットホームな雰囲気居心地がいい」、「先生が親身になって話を聞いてくれ、授業も良かったこと」、「キリスト教カトリックを通してより多くの考え方に会えたこと」などの声が並びました。

一方、サレジオ学院にわが子を6年間通わせた保護者の声では、同校の魅力として「穏やかで落ち着いていて環境が良いところ」、「面倒見が良く、一人ひとりを大切にしてくれ、子どもを縛らないこと」、「アットホームで教員も穏やかで優しく、あたたかく見守ってくれること」、「生徒同士の関係がとてもよく、学校が好きでいること」、「生徒と先生との間に信頼関係が成り立っているところ」などの言葉が、通わせて良かったこととしては、「素晴らしい友人に出会え、子どもが学校が大好き。満足して卒業できました」、「息子の長所を引き出してくれました」、「他者を思いやる優しい性格の生徒が多かった」、「勉強だけでなく、生き方の

道標を示してくれた」、「のびのびとしていて、緩やかさのある校風が子どもに合っていました」、「成長することを信じて待っていてくれたこと」、「『ありがとう』という言葉が自然に出てくるようになったこと」など、やはり生徒自身が感じてきたことと、保護者が感じたことが、ほぼぴったりと重なります。

これらの言葉が、サレジオ学院が数ある男子進学校のなかでも際立って家族的で穏やかな校風の学校であることを物語っています。

ドン・ボスコが尊敬し、自分に反対する人に対しても忍耐強くおだやかに対話を続ける姿勢を取り続けたと語り継がれる聖フランシスコ・サレジオ。その聖フランシスコ・サレジオの「柔和」の精神にならい、その名をつけて設立された「サレジオ会」。その精神はいまも、サレジオ学院の教員と生徒の間に息づいているようです。



生徒昇降口の階段には、6年間で短くなっていくオブジェがたてられており、サレジオ学院の学びでの成長が表現されている。

### サレジオ学院の姉妹校

### コラム2



日本には「サレジオ会日本管区」があり、多くの教育事業を行っています。そのうち、サレジオ学院の姉妹校として、中学・高校では、大阪星光学院（大阪市）、日向学院（宮崎市）、サレジオ工業高等専門学校（町田市）、サレジオ小・中学校（小平市）があります。また、ドン・ボスコが創立した女子修道会であるサレジアン・シスターズが担当している学校として、写真の目黒星美学園（世田谷）、星美学園（赤羽）、静岡サレジオ（清水）などがあります。



かつてはバスで通う生徒も多かったが、最寄りの横浜市営地下鉄グリーンライン「北山田駅」が近くにできた現在では、ほとんどの生徒が電車で通学しているという。